

介護する人を社会全体で支えるしくみが必要で

「障害者施策推進計画」に ケアラー支援の視点を

障がいのある人の支援では介護の負担が大きいケアを必要とする人ほど、今ある支援だけでは支えられず、家族がその多くを担わざるをえない状況にあります。

例えば介護の現場では…

- ▶ 移動支援では… 障がいの状況により、対応が困難な場合は受け入れ先が見つからない
- ▶ 重度訪問介護では… 制度はあるけれど、支援に入ってくるスタッフが見つかりにくい
- ▶ 介護者の休養をめぐって… 重度の心身障害がある人や人工呼吸器を使っているなど医療度の高いケアを必要とする人が使えるデイサービスやショートステイの施設が少なく、介護者の休養をとることが難しい

区が実施してきた調査でも、介護者の多くが配偶者や子どもなどの家族であることが報告され、家族介護の負担軽減が課題として挙げられています。

現在、改定に向けた協議が進められている「障害者施策推進計画」は障害のある人の生活を総合的に支援するための施策です。しかし改定にあたって実施された調査に介護を担う家族の意向を尋ねる項目はありませんでした。計画には介護する人（ケアラー）の声を積極的に取り入れ、ケアラー支援の視点を盛り込むことを求めました。

介護、看護、日常生活の世話等によって介護する人の生活が犠牲にならないよう社会全体で支えるケアラー支援条例を提案していきます。

葛飾にも『子どもの権利条例』がつくれます！

今年10月に予定されている児童相談所の開設と同時期に制定する報告があり、昨年度の一般質問で要望した子どもの権利条例制定が実現することになりました。条例づくりに葛飾区の子どもと子どもに関わる人たちの声が反映されるよう引き続き注視していきます。条例制定により葛飾区でも、安心して生きる権利、いじめや虐待などから守られる権利、意見を表明する権利など、子どもの最善の利益を保障し、子どもの権利の視点を踏まえた上で計画や施策の策定を行なっていくことが求められます。

子どもと同じように保護者も悩みを抱えています

不登校の子どもをもつ 親への支援の充実を

文部科学省は、小中学校の不登校の児童生徒数が2021年度に全国で24万4940人となり、初めて20万人を超えたと公表しました。葛飾区でも小学校で318人（前年度から122人増）、中学校で648人（前年度から215人増）と、いずれも大幅に増加しています。区は不登校やその傾向にある児童生徒を支援するため、これまで中学校11校、小学校1校に設置してきた校内適応教室を今年度新たに中学校2校に設置し、今後全中学校に設置する予定です。

不登校の子どもと同様にその保護者も悩みや焦りを抱えており支援が必要です。

区では支援を必要とする保護者との接点をもつために、子どもとの関わり方を学ぶペアレントトレーニングや親の会による支援を行っており、ペアレントトレーニングは申し込みが多く抽選になるなど、保護者が具体的なサポートを求めていることがわかります。

また、かつしか子ども・若者応援ネットワークが年に4回ほど開催している「親子カフェ」親が楽しく学び合う場で子どもが自由にすごし安心できる拠点をつくるプロジェクト「トーキョーコーヒー」(葛飾には現在3拠点)など、民間でもさまざまな活動が行われていることから、区の取り組みだけでなく民間の活動についても区から情報提供していくことを提案しました。今後も不登校の子どもをもつ保護者への更なる支援の充実を要望していきます。

子どもの最善の利益が保障される葛飾へ 子どもの権利侵害を救済する機関の設置を

設置が決定している「子どもの権利擁護相談窓口」の相談員について質問し、担い手には子どもの声を代弁するアドボケート、社会福祉士など子どもの声を聞くための専門家を考えているとの回答を得ました。

自分から声をあげられない子どもの権利を保障し、権利侵害に対する救済のしくみとして、川西市の「子どもの人権オンブズパーソン」や世田谷区の「せたホッと」のような、子どもの権利擁護に関して調査・勧告・意見表明権と独立性が確保された第三者機関の設置を要望しました。

ちがいを知って同じ時間を生きる だれもが支えあいながらともに暮らせる葛飾へ たがいを理解しあえる副籍交流について

現在、都立特別支援学校に在籍する児童・生徒の多くは居住する地域の小中学校に副次的に籍を置いています。中には学校・学級便りや手紙などの交換、行事や授業への参加による交流（副籍交流）を行っている児童・生徒もいます。副籍交流は住んでいる地域から離れた都立特別支援学校に通う子どもにとって地域とのつながりを深めるものであり、交流する双方にとって互いを理解する貴重な機会となっています。

実際の副籍交流を視察したところ、特別支援学校に通う子どもの保護者が用意した映像資料を使って、障がいのある児童・生徒への理解を深める内容が話され、時間は15分ほどでした。保護者が中心になって求める交流を提案し、自ら調整して実現させており、保護者の負担になっていることに問題を感じました。負担の大きさから希望

しても実現できないことがあるとも聞きます。副籍交流は本来、両校の特別支援教育コーディネーター※が連携し、保護者の希望にそった交流が実現できるよう計画することとされていますが、十分に機能していない現状があります。希望すればだれもが思いにそった交流を実現できることが望まれます。保護者の負担を少しでも軽くするため特別支援教育コーディネーターが機能するよう要望しました。

※ 特別支援教育コーディネーター：子どもの障がいに対する教職員の理解を高め、一人ひとりのニーズに応じた教育を実施するため、保護者や関係機関に対する学校の窓口、学校内の関係者や福祉・医療等の関係機関との連絡調整役を担う。学校毎に配置され、各学校の教諭の中から校長が指名する。支援を必要とする子どもに関わる人たちをつないでそれぞれがもつ知恵と力を引き出し、次の支援に結びつけていく役割をもつ。発達気になる子どもへの配慮や支援、特別支援学級への移籍についての内容等も相談することができる。

だれもが住みなれた地域で安心して暮らせる葛飾に

私たちの政策は地域のみなさまの声から生まれます あなたのひとことをお寄せください

生活の中で感じる疑問・困難、
こんなまちにしたい、というご提案など、
ご自由にお書きください。

WEBフォームからも回答いただけます→→



お手数ですが
63円切手を
貼付のうえ
投函ください

1 2 5 0 0 5 4

沼田 たか子

PROFILE ❖ ❖ ❖

- 1976年 新潟県吉田町（現：燕市）に生まれる。
- 1998年 新潟大学医療技術短期大学部看護学科卒業。日本医科大学付属病院、新潟大学附属病院に勤務。結婚後、訪問看護師として働く。
- 2011年 聖徳大学人文学部心理学科卒業。生活クラブ生協加入。
- 2013年 葛飾区新宿に転居。子育てをしながら、生活クラブ生協まちかつしかの運営委員として活動する。
- 2017年 身近な地域で暮らす人々の役に立ちたいという思いから葛飾区内の訪問看護ステーションに勤務する。
- 2021年 葛飾区議会議員選挙に初当選
- 現在 文教委員会、区民サービス向上対策特別委員会に所属
- 資格：看護師、介護支援専門員、心理相談員
- 趣味：庭いじり、ヨガ ●家族：夫、息子 ●葛飾区新宿在住

東京都葛飾区高砂8-21-1

沼田 たか子 行

よろしければご記入ください

お名前： _____

ご住所： _____

電話番号： _____

メールアドレス： _____